

## 令和5年度第2回館林市子ども・子育て会議 議事録【概要】

1 日 時 令和5年12月12日（火）午後3時～午後4時50分

2 場 所 館林市役所501AB会議室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 14名

森会長、坂本副会長、中村和宏委員、角田委員、大野委員、新島委員、高橋委員、  
鎌田委員、森田委員、田端委員、鶴飼委員、久光委員、太田委員、中村知子委員  
(以上名簿順)

※三田委員欠席

【市】 15名

こども局 : 木村局長

健康推進課 : 島田課長、大谷母子保健係長

子育て支援課 : 奥澤課長、小澤こども相談係長、松澤子育て支援係長、新井

こども課 : 浅海課長、前原幼保運営係長、飯塚幼保支援係長、石井係長代理  
熊田児童センター長

教育総務課 : 木村課長

生涯学習課 : 廣澤課長、石井青少年係長

【委託業者】

地域計画株式会社 八木氏

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1) 第2期館林市子ども・子育て支援事業計画 令和4年度実績について

(2) 第3期館林市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について

(3) その他

5 配布資料

・会議次第

・館林市子ども・子育て会議委員名簿

・資料1 第2期館林市子ども・子育て支援事業計画 令和4年度実績について

- ・ **参考資料1** (文部科学省) 放課後子供教室等の地域学校協働活動の取組の充実、及び実施に際しての子供の安全・安心の確保について
- ・ **参考資料2** 地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン【抜粋】
- ・ **資料2** 就学前児童保護者調査票の設問属性
- ・ **資料3** 小学生児童保護者調査票の設問属性
- ・ ニーズ調査票(案) (就学前児童保護者用)
- ・ ニーズ調査票(案) (小学生児童保護者用)
- ・ オンライン回答のご案内・回答画面イメージ
- ・ 館林市子ども・子育て会議条例
- ・ 幼稚園、保育園、認定こども園目的別一覧(会長より追加配付)

## 6 会議内容(概要)

### (1) 開会

### (2) あいさつ(会長)

### (3) 議事

#### ① 第2期館林市子ども・子育て支援事業計画 令和4年度実績について

会長より、資料「幼稚園、保育園、認定こども園目的別一覧」に基づき、教育・保育の認定区分について説明。

全体の説明後、関係各課より各担当事業について説明：

〈教育・保育の量の見込みと確保方策〉

**資料1**に基づき説明。

〈地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策〉

**資料1**に基づき説明。

また、(11)②放課後子ども教室に関して、**参考資料1**、**参考資料2**についてもあわせて説明。：

**参考資料1**について、これは12月1日付け文部科学省通知である。放課後子ども教室は地域学校協働活動の中の1つの事業であり、「学校を核とした地域づくり」が目的となるため、「子どもの居場所づくり」を目的とした放課後児童クラブとは全く別物であることをご理解いただきたい。また、専門の職員をスタッフとしている放課後児童クラブとは異なり、放課後子ども教室は地域住民が主体となる事業のため、実施に当たっては安全安心を確保することが重要であり、どういう方に依頼をするのかということを含め、子どもたちを見守れる体制を確保

するようにとの内容が記載されている。

**参考資料2**について、こちらと同じく国から通知があったガイドラインである。こちらにも、地域のボランティアの方が主体になっているため、どんな方なのか、責任がどういったところにあるのか、どんな役割をしていくのか等を明確にするよう謳われているほか、学校と地域住民への情報提供・理解の促進のため、それぞれと連携して事業を実施するようにとされている。また、安全安心な活動の推進のため、予防・発生時の対策の両方を多面的に準備するように、ということも記載されている。

② 第3期館林市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について

委託業者より、**資料2**、**資料3**、「ニーズ調査票（案）（就学前児童保護者調査票・小学生児童保護者調査票）」、「オンライン回答のご案内・回答画面イメージ」に基づき説明：

調査票（案）は、平成30年度の調査票をベースに、前回の会議において委員から出た意見を取り入れて作成している。調査票（案）のうち、前回会議での意見を反映した部分については青字となっている。また、就学前児童保護者調査票の間26については、国の手引きの変更により修正を加えている。国の手引きについては、9月20日に初版が発出されて以降、確定版が発出されていないため、今後、確定版の手引きの内容によってはその他の部分についても変更の可能性があることをご承知おきいただきたい。

オンライン回答については、1人1人にログインIDとパスワードを割り振って配布することとなる。一時保存の機能がついており、中断した後も、同じ二次元コードを読み取ってID・パスワードを入力すれば途中から回答することができる。

また、前回の会議において、ニーズ調査の対象人数（未就学児・小学生それぞれ1,250人）という数字の妥当性について質問があったので説明をしたい。統計においては母集団に対して適切な回答数（最低限）がある。館林市については10月末現在で未就学児が2,717人、小学生が3,408人であり、この人数から考えると未就学児童保護者・小学生保護者それぞれ350人程度の回答が得られれば問題ないという計算となるため、仮に回収率が40%程度であったとしても500人分の回答数は得られ、問題ないと考えられる。なお、前回会議でも申し上げたが、平成30年度のニーズ調査事の回収率は8割を超えている。

市より、配布した調査票（案）には含まれていないが、夜間養護等事業（トワイラ

イトステイ)のニーズを把握するための設問を追加したい旨を説明  
→異議なし。

#### 【質疑応答】

委員 放課後子ども教室について、放課後児童クラブと異なることはなんとなく分かったが、それぞれの存在意義などももう少し具体的に説明していただけるとありがたい。

委員 1つ目は、令和4年度実績の16ページ「(11)1放課後児童クラブ」今後の見通しの方向性について、児童センターを間借りしている第二小学校区の1支援に関して、施設整備を進め、適切な専用区画の確保を進めるとあるが、具体的にどういう確保をなさるのかお聞きしたい。

2つ目は、17ページ「(11)②放課後子ども教室」について、なぜ空き教室を利用しないのか、改めてお聞きしたい。また、今後の見通しと方向性について、「必要に応じ他の地区への拡充を検討する」とあるが、「拡充を検討する」前に現状をより良いものにしていくべきではないかと考える。

最後に、アンケート調査票について、小学校児童保護者用の13ページ、問30-1で、館林市内のフリースクールとして「まなびバ!シリウス」が紹介されているが、私の知る限り館林市内では他に2ヶ所あると思うので、それも入れていただきたい。

委員 保護者からの意見で、ファミリー・サポート・センターについて、利用したい時間帯におねがい会員が見つからず利用できないという話をよく聞く。働いている方が利用したい時間帯に預かりができる会員を増やしていただきたい。

ニーズ調査でもファミサポを利用したいと回答する保護者がいると思うが、実際は空きがないから利用できないというのが現状かと思っている。

委員 放課後子ども教室について、七小と十小に加えて、令和5年度は九小においても放課後子ども教室を開始している。九小は学校と公民館が遠いため学校内で実施している。事業の継続を考えると、地域住民へもっとアピール・周知していただけるといいと思う。

委員 放課後子ども教室について、まだよくわからないので今後勉強していきたい。

委員 幼稚園・保育園・認定こども園において、外国籍の方も安心して通えるような流れができたらいと思う。現在は市において把握した場合は園に繋げていただいているが、それよりも前に気づく、というのはどうしても難しい。

生まれたときからの様子が分かったり、外国籍の方に説明するときにはわかりやすい方法が何かあるとありがたい。

委員 令和4年度実績5ページ「(2) 地域子育て支援拠点事業」について、関わることが多いので先生に聞いたところ、最近では働く母親が増え、1歳頃までの子どもがいる人の利用が圧倒的に多いとのこと。「孤立しないように、利用者同士の繋がり合う場を提供した」とあるが、生後6ヶ月頃まではあまり外出しない状況の中、約半年間の短い間しか利用しない状況で保護者を孤立しないようにするというのは、どのようにやっていくのかと思った。また、フリースクールでまなびバ！シリウスだけ名前が出ているというのは違うなと思ったので、出すなら3社出した方がいいと思う。

それから、ニーズ調査について、保護者はどこから子育て支援情報を得ているのか分からないのではないかなと思う。現在館林の人口7万人に対し、公式LINE登録者は3,900人しかいない。情報発信・受信のミスマッチが起きているのではないかなと感じる。アンケートで、例えば「何で情報を得ていますか。」という設問があれば、情報入手先について把握できるのではないかな。また、この分量のアンケートを回答するのに、アンケートに答えることで何か効果やメリットがないとつらい。悩みについて気軽に相談できる場所であるとか、親同士の仲間作りはどこでできるとか、そういうことが見えるアンケートであれば、また、そのアンケートに対して市が動いてくれているということが見えてくるとやりがいがあると思う。

委員 このアンケートに回答するメリットを感じない。回答する設問数が最も少なくなるように回答してとりあえず終わらせるようなことになると思う。先ほどの意見と同じで、アンケート結果によってどう変わったかの情報が入るようにしないと、回答するメリットがわからないと思う。

まず「このアンケートに回答する、しない」という設問を入れ、「しない」であれば理由を入力させることで理由を把握すべき。たとえ8割の方が回答しても、2割の回答しない理由が不明のままでは、以降も回答しない理由については解決せず、10割を目指してないことになる。

また、13事業について初めて知るものが多かったが、自分にとって最適な事業がわからないので、状況によって最適な事業を紹介していただけないかなと思う。

委員 調査票に発達に関しての設問を入れていただけてとても嬉しく思う。普通に目に入るところに「障がい」という言葉があることによって、特別ではな

い、普通であると感じられると思う。本当に保護者には勇気になると思う。また、今回の会議で市内にフリースクールがあることを初めて知った。これについても、広くチラシを配布するなど、特別なことではなく、普通に目に入るような形で周知していただけたらいいと思う。

委員 ニーズ調査には思春期の中学生の保護者は対象に入らないのかというのが疑問である。

また、外国籍の方がこのアンケートに答えられるのかが疑問である。日本語の読み方や意味を理解していない方が、多くの質問に答えられるのか。

委員 1つ疑問なのが、ニーズ調査の問4「手帳を持っているお子さんがいらっしゃいますか」問5「発達に関して、医師の診断は受けていないが、心配な点があるお子さんはいらっしゃいますか。」とあるが、医師の診断を受けていて、手帳を持っていないが心配な子、いわゆるグレーゾーンの子どもについては対象にはならないということか。

副会長 前回の会議での意見を全面的に取り入れてくださって私達もやりがいがあると感じている。確実に良いものを作っていくために、今回みなさんから出た意見も取り入れて若干の修正を加えていただければありがたい。

特に、オンライン回答を希望した意見に対してきちんと対応していただいたことに大変ありがたく思っている。

会長 すべての意見に答えを出すことは時間的にできないので、この後、市の方で再度検討・修正していただく。国のひな型も含めて事務局の方で内容を整え、改めて委員の皆様へ配布することとなる。

そこで皆様のご意見をいただいた後、私と副会長で再度確認させていただき、それを最終稿として進めていきたいと考えている。本日皆様にご検討いただいた内容は、第3期館林市子ども・子育て支援事業計画の基になるため、委員の方にも配布する。

### ③ その他

特になし。

### (4) 閉会

事務局より、本日の質問については後日郵送とするか、次回の会議にて回答させていただき旨を説明し、閉会。